

台本1

※収録の際、セリフのみを収録してください。キャラクターの名前情報などの必要はありません。

※本番で使用するセリフはサブキャラクター、擬音セリフになります。メインキャラクターは審査の参考として収録をお願いしています。

※一部のセリフのみの応募も可能です。

できるだけ多くのセリフを収録いただけると幸いです。一部のみの場合は台本からお好きなセリフをお選びいただき、メインキャラクター2つ以上、サブキャラクター4つ以上、擬音1つ以上を収録の上ご応募ください。

【主なキャラクター】

タクミ…三毛猫のオス。本人曰く「どこにでもいる普通のニート」あらゆることに対してモチベーションが低い。

ユガミ…タクミの妹。意識高い系中二病の大学生。「〜DEATH」という特徴的な語尾で話す。

社員…猫企画の社員たち。社長の言うことは絶対。

奴隷猫…猫企画の労働者たち。疲労困ぱいで顔はげっそりしている。

小鳥たち…タクミの頭の上に登場する小鳥たち

【メインキャラクターパート】※太文字が収録セリフになります

タクミナレーション。

タクミ「オレは猫。名前（ニヤまやあ）は猫井タクミ。どこにもおるごく普通の——
——ニートだ」

夕方に目が覚めるタクミ。

ユガミ「今起きたDEATHか？ 羨ましいDEATH、ニートは危機感がニヤて」

ユガミ「あんたもたまには——猫世界のアクチュアルなイシューについてラディカルかつクリティカルに考えてみてはぶっ DEATH。」

タクミ「お前(まやあ[mæ])そんなニヤンと言っけど、ニートも大変(たやあへん)ニヤンだて」

夜中。タクミ、ユガミの部屋の前に行き、

タクミ「ユガミ。起きとるか？」

ユガミ「ニヤン DEATH？ ミーは技名——ではニヤて、明日の勉強会のためのレジューメ作ってるDEATH。邪魔するニヤ DEATH」

【サブキャラクターパート】

社長へのプレゼン発表中。

社長の「どこまで進んでいる?」

指示棒でスクリーンを指す社員A

社員A「こちらをご覧ください」

スクリーンにムクミが描いたB「同人誌の表紙がデカデカと表示される。

社長「これはなんだ?」

社員A「見ての通り、BLです」

社長「ワラワはそのBには興味がない。《ブラック・レオパード計画》だ。どうなっている?」

社員A「ご、ご無礼しました。これが現在の進捗率です」

社長「先月と変わっていないようだが?」

社員A「いえ、0.1%増えました」

社員Aの足下の床が開く。穴に落下していく社員A。

社員A「奴隷はいやだあああ!」

社長「例の試作機開発は?」社員B、ビクツとし、

社員B「ん、この場で報告するつもりでしたので……」

社長「そうか。パイロットは?」

社員B「そちらもすでに内定(なやあてえー[58])しております」

社長「お前は優秀な社員だな。幹部候補見習い推薦リストのいちばん下に入れておいてやるわ」

社員B「ありがたき幸せ」

社長「《ネコランド》のほうはどうだ?」

社員C「こちらが先月の成果にニヤリます」

社長「これは何だ?」琥珀のアップ

社員C「樹液が固まったものみたやあです」

社長「ほとんどガラクタだな」に対し金色の招き猫を持ちながら

社員C「し、しかし、たとえばこういふうニヤ珍しいものも……」

社員C、床下に落ちていく。

社員〇「ニャああああああ！」

社員たち、怒りをあらわにし、タクミに向かって殴りかかろうと走り出す。

社員3「邪魔をするニャー！」

社員4「社畜をニャめんニャよー！」

【擬音パート】

脱走しようとした奴隷猫42号の身体が風船のように膨らみ、叫ぶ奴隷猫42号

奴隷猫42号「ニャアアアアア！」

線路と線路の間に落ちたタクミの頭の上を小鳥たちが飛び回る

小鳥たち「ピヨピヨピヨ……」

死にそうな顔から催眠光線を浴びて猛烈な勢いで働き始める奴隷猫たち。目はつり上り、耳から煙が噴き出る。

奴隷猫たち「ニャニャニャニャニャー！！！」

社長「とつとと回収して帰るわよ」に対し返事をする社員たち

社員たち「はっ」

爆風で四方八方にふっ飛ばされていく社員たち。

社員たち「ニャあああああー！！！」